

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

0000 0658

秘

日本製鐵株式會社第三回營業期
自昭和九年十月一日
至同十年三月三十一日
事業計畫書



日本製鐵株式會社第三回營業期 自昭和九年十月一日至十年三月三十一日 事業計畫書

一起業

第一次設備擴充計畫概說

昭和九年本邦普通鐵鋼ノ需給豫想ハ多量ノ屑鐵輸入ヲ見込ミ

需要	約二五六万噸	普通鋼材	約三五二万噸
供給	約一九九万噸	銑鐵	約三五五万噸
差引不足	約五七万噸		

本社約八九万噸 社外約一〇万噸
本社約一三七万噸 社外約一七八万噸
滿州約三七万噸 印度約二〇万噸

ニシテ内銑鐵ニ在リテハ本社銑鐵爐中上半期ニ於テハ設備ノ補修未完了等ニ因リ全能力ヲ發揮スル能ハカリシ爲右如キ不足ヲ示スモノナルモ下半期ニ至リテハ補修モ完了シ略標準作業日數ノ操業ヲ爲シ得ルニ至ルヲ以テ之ヲ基礎トシテ考察スレト右不足量ハ約三六万噸ニ減縮セシ然レドモ來年度以降ニ在リテハ滿洲ヨリノ輸入減少スベク尙前記鋼材ノ不足ニ對シテモ亦自給ヲ企圖スルノ必要アリ之ガ製鋼原料トシテモ更ニ約二一万吨ノ銑鐵ヲ要ス

又前記鋼材ノ不足量中ニ例令ハ帶鋼、美裝鋼板(アトメタル)、珪素鋼板等ノ高級鋼板ニシテ國內ニ於テ壓延設備ノ不足ニ依リモノ存スルヲ以テ之等モ俱ニ其自給ニ付攻究セザルベカラス故ニ單ニ昭和九年ノ実績ニ即シテ之ヲ考フルモ製銑、製鋼、壓延、各設備トモ擴張ヲ必要トスルノ狀態ニアリ然レドモ本年ノ需要量ハ之ノ最近丙三年ノ実績ニ照シ急激ノ增加ニ係リ其ノ一部ハ一時的ノ現象ニシテ必ズシモ永續性ヲ有スルモノト觀ルベカラザレヲ以テ設備ノ擴張計畫ヲ樹ツルニ方リテハ唯斯ノ本年ノミ狀況ニ憑據スルハ當ヲ得タルモノト謂フコトヲ得ナルベシ

故ニ本社ノ設備擴充計畫ニ於テハ深ク思フ所、點ニ致シ昭和八年普通鋼材需要ノ實質、跡ヲ基点トシ之ニ對シ過去十數年間ニ於ケル各年ノ需要実績ニ基キテ劃シタル曲線ヲ將來ニ延長シテ今後或レ期間ノ各年需要量ヲ推算シ其ノ示ス所ノ數量ヲ目標トシテ是ヲ供給スベキ設備ノ擴充ヲ爲スヲ計畫ノ根基トシ先以テ其ノ第一次ノ実行トシテ本營業期ヨリ着手スベキモノハ遲キモ昭和十二年ノ中頃迄ニ完成ヲ期スルモノニ屬シ即ケ當面ノ需要ニ應ズベキ銑鐵、鋼塊、鋼材ノ生産設備ノ擴張其他製銑原料ノ處理設備並ニ附帶設備ノ擴充等ナリトス以下其ノ實體ニツキ一々之ヲ区分シテ記述スベシ

(一) 八幡製鐵所

(1) 鑄鑛爐増設

一基 日額 一〇〇〇 吨

豫算總額

六九三四、〇〇〇 円

支出割

第三回營業期	四一、〇〇〇 円
第四回同	一〇九、〇〇〇 円
第五回同	一五七、五〇〇 円
第六回同	二〇七、五〇〇 円
第七回同	一〇七、五〇〇 円
第八回同	七〇、八〇〇 円

近時銑鐵、需要急増シ本年ニ於テハ印度銑二十萬吨以上ノ輸入ヲ要スルニ至レリ之カ對策タ

ル最速且ツ最廉ノ方法トシテハ八幡洞岡ニ現存セル五百吨爐及七百吨爐ニ並列シテ千吨爐ヲ設備スルニテ是レ既設ノ海岸荷揚岸壁、荷揚機等ヲ大体兼用シ得ヘキ利アル為ナリトス而シテ本爐ハ昭和十一年末若クハ十二年始ニ火入ヲ行ヒ得ヘキ見込ニシテ之ニヨリ銑鐵年額三十六萬五千吨(修繕期間ヲ見込ミテ)年産平均三十五萬吨ノ産出スヘシ若シ一朝不況襲來シ減産ノ要ヲ生シタル場合ニ於テハ目下急需ニ應スル為比較的生産費ノ高キヲモ忍ビテ操業ヲ續ケ居レル最古ノ鑄鑛爐ヨリ順次ニ休業シテ生産ヲ調節スルノ見込ナリ

四) 炭炭爐 増設 一連 年額約 四二〇、〇〇〇 觔

副産物設備共 重ナル副産物生産年額

硫酸安母尼亞 七、〇〇〇 觔

ベンゾール類 五、〇〇〇 〃

ピッチ 一五、五〇〇 〃

クレオソート油 六、五〇〇 〃

ナフサリン 一、三〇〇 〃

ピッチコーク 一、〇〇〇 〃

精製タール 八五〇 〃

クレゾール、アニスラセン等 七〇〇 〃

別製レトルトカーボン 二五〇 〃

豫算總額

七、九〇九、〇〇〇 円

五、三三九、〇〇〇 円 二、六七〇、〇〇〇 円

炭炭爐、副産物設備

支出割

第三回營業期

四七九、〇〇〇 円

三三九、〇〇〇 円

一四〇、〇〇〇 円

第四回同

七一、〇〇〇 円

四六一、〇〇〇 円

二五〇、〇〇〇 円

第五回同

一、三二五、〇〇〇 円

一、〇〇〇、〇〇〇 円

三三五、〇〇〇 円

第六回同

二、二二五、〇〇〇 円

一、四〇〇、〇〇〇 円

八二五、〇〇〇 円

第七回同

一、九二五、〇〇〇 円

一、三〇〇、〇〇〇 円

七二五、〇〇〇 円

第八回同

一、三四四、〇〇〇 円

八三九、〇〇〇 円

四〇五、〇〇〇 円

前記ノ子飛鑛爐ニ件テ炭炭製造設備ニシテ兼テ戸畑工場ニ於ケル現在ノ不足高ヲ補フベキ部分ヲモ加味ス

(1) 官營製鐵所時代、企畫ニ依ル諸設備中未完了部分ノ完成

今後ノ豫算總額

八二七、〇〇〇円

支出割

第三回營業期

三、六三〇、〇〇〇円

第四回同

四、六五〇、〇〇〇円

内譯左ノ通り

(2) 第一製鋼工場大改造

今後ノ豫算總額

四、一三〇、〇〇〇円

支出割

第三回營業期

一、九四一、〇〇〇円

第四回營業期

二、一七九、〇〇〇円

本件改造ハ、曩ニ製鐵所官營時代ニ著手シ本社設立後引續キ其ノ工事ヲ進行シ來リタレモ、ニシテ官營製鐵所創設當時ノ建設ニ係ル最古ノ製鋼工場ノ内約

三分ノ二ニ代換スルモノナリ

此ノ新設備ハ百吨傾注式製鋼爐四基ヲ備ヘ、炭爐瓦斯ト熔鑛爐瓦斯トヲ混用シ、瓦斯發生炉ヲ用ヒサル最モ新式ノ計畫ニシテ昭和十年四月五カ火入ヲ行ヒ得ルノ豫定ナリ

本新工場ノ能力ハ差當リ年額三〇〇、〇〇〇吨ナルモ將來必要ニ際シテハ之ヲ五〇〇、〇〇〇吨迄擴張シ得ルノ余地ヲ存ス

本新工場完成ノ上ハ舊工場ノ内最古ノ二十五吨中炉八基ハ其ノ瓦斯發生炉ト共ニ之ヲ撤去スベキモ比較的所新ラシキ四基ハ仍作業ヲ急シ得ベキヲ以テ本設備完成後ニ於ケル本工場ノ總鋼塊量ハ年額約三九三、〇〇〇吨トナリ從來ニ比シ年額約一、一三〇、〇〇〇吨ノ増加トナル

(3) 鋼材壓延設備改造

今後ノ豫算總額

七四九、〇〇〇円

支出割

第三回營業期

二二五、〇〇〇円

第四回同

五二四、〇〇〇円

右、主トシテ鐵道省註文ノ二十五米軌條ノ製造ニ應セハガ爲既設第一分塊工場、軌條工場及精整工場ノ設備ニ改造ヲ施スモノニシテ之カ完成ノ上ハ第一分塊工場ニ在リテハ年額約五〇、〇〇〇。軌條工場ニ在リテハ年額約六〇、〇〇〇。軌條、壓延及精整能力ヲ増加スベシ

(c) 鑛滓處理設備増設

今後ノ豫算總額

二〇一七、〇〇〇円

支出割

第三回營業期

八四二、〇〇〇円

第四回同

一、二七五、〇〇〇円

右、製銑作業上ニ於テ副生スル所ノ鑛滓利用ノ爲高炉セメントヲ製造スル設備ニシテ之カ完成ノ上ハ年額約一八〇、〇〇〇。軌(約一〇〇、〇〇〇。樽)ヲ製出スル

コトヲ得依テ從來ノ設備ト合セテ八階ニ於ケレ總能力ハ年額約二六五、〇〇〇。軌トナルモノトス

(d) 瓦斯配給設備

今後ノ豫算總額

三一三、〇〇〇円

支出割

第三回營業期

一三三、〇〇〇円

第四回同

一八〇、〇〇〇円

右、鑛鑛炉及炭炭炉ヨリ發生スル瓦斯ヲ混合シテ第一製鋼工場及第一分塊工場ニ配給スルノ設備ナリ(前記(d)ノ項参照)

(e) 給水設備

今後ノ豫算總額

九二五、〇〇〇円

支出割

第三回營業期

三二五、〇〇〇円

支出割

第三回營業期 五四九、〇〇〇円

第四回同 一四三〇、〇〇〇円

第五回同 一、一七八、〇〇〇円

本計畫ハ兵器ノ一部、飛行機及自動車工業、諸車輛、家具類代崇工業用器具ノ一部等其ノ用途ノ極メテ弘キ所謂「アートメタル」ノ壓延設備ト最近需要ノ激増シタル硅素鋼板ノ製造設備トノ二者ヲ設備セントスルモノニシテ之ガ完成ノ曉ニ輸入品ニ對抗シ相當ノ利益ヲ擧ゲ得ベキモノナリトス而シテ本計畫ノ硅素鋼板製造設備完成ノ上ハ現在ノ硅素鋼板工場ハ其設備稍舊式ニ屬スルモノナルニ依リ其ノ能力ヲ黒板ノ製造ニ轉向セシメハトス

(ハ) 電氣製鋼炉増設 十五瓩炉ニ基

豫算總額 三三〇、〇〇〇円

支出割

第三回營業期 一〇、〇〇〇円

第四回同 一七〇、〇〇〇円

第五回同 一五〇、〇〇〇円

軍艦用「テュール」鋼板及同條鋼用鋼塊、硅素鋼板用鋼塊等ハ多年ノ經驗ノ結果電氣炉ニ依リテ之ヲ製造スル方品質ヲ良好ナラシメ且ツ歩留リヲ増加スルヲ以テ反テ生産費ヲ低下セシムルヲ確メ得タリ依テ茲ニ前記ノ電氣炉ヲ第一製鋼工場^平炉^平八基ノ撤去跡地ニ建設セハトスルモノニシテ之ニ依リテ鋼塊年額 三〇、〇〇〇噸ヲ増加スベシ、
(ト) 第四發電所擴張 二、五〇〇、〇〇〇「キロワット」ターボ「ターボ」増設 (微粉炭燃焼装置) 周波数 五〇「サイクル」トス (汽罐ヲ設置ス) 二、四五三、〇〇〇円

支出割

第三回營業期 一三〇、〇〇〇円

第四回營業期

二二五、〇〇〇円

第五回同

二一〇、〇〇〇円

現在八幡製鐵所本工場に於てハ二十五サイクル交流電力連日約四三、〇〇〇キロワットの發電機ヲ運轉シ、一トワット約七厘六毛ノ生産費ヲ要ス而シテ之ガ豫備トシテハ一五、五〇〇キロワットの發電設備ヲ有スト雖モ其ノ利用ニ當リテハ汽罐ノ能力不足ニシテ且ノ生産費ハ約一錢四厘ノ高額ヲ要ス加之既ニ完成セル第二鉄力板工場ガ全能力ヲ發揮シ且ツ目下建設中ノ改造第一製鋼工場ガ完成スルニ至ラバ電力ノ不足ヲ來スベキハ極メテ明瞭ナル事態ナルヲ以テ茲ニ更ニ二五、〇〇〇キロワットの發電能力ヲ擴張シ以テ所要電力ノ充實ヲ期シ併セテ前掲ノ鑄鑛炉、鍛炭炉、副産物工場、西八幡工場、高級鋼板工場及電気製鋼炉等ニ要スル電力ヲモ供給セムトスルモノナリ蓋シ本計畫ノ實現ニ依リテハ單ニ動力發生上ノ不安ヲ一掃シ得ルノミナラス現ニ外部ヨリ購入セル五、〇〇〇「サイクル」電力モ

將來「サイクル」変換機ノ設備ニ依リテヨリ安價ナルモノヲ使用セシメ得ルコトナルベシ

(4) 燒結工場(大体「ケリ」ナラト)新設 燒結量年額約一三〇、〇〇〇吨(五、〇〇〇吨迄ハ増産シ得ベシ)

豫算總額 七〇〇、〇〇〇円

支出割

第三回營業期

六五、〇〇〇円

第四回同

四三四、〇〇〇円

第五回同

二〇一、〇〇〇円

本計畫ハ近來損ニ増加シタル窒素固定ニ依ル硫酸安母尼亞製造ヨリ生ズル硫化鉄鑛燒滓即チ硫酸滓ノ内差當リ船便ニヨリ廉價ニテ烟塔へ直接廻漕シ得ベキ瀬戸内海方面其ノ他ノモノヲ燒結セムトスルノ設備ニシテ之ヲ予烟工場地内ニ設置ス而テ該燒結鉦ハ主トシテ予烟鑄鑛炉ニ使用シ餘分ハ八幡予烟聯絡専用鐵道ニ依リ之ヲ八幡ニ

輸送シテ使用セシムル見込ナリ

従来ノ洞窟ニ於ケル燒結工場ノ能力約一〇〇、〇〇〇。此ニ本設備ノ能力
併セテ八幡製鐵所ニ於ケル燒結量ハ年額約二五〇、〇〇〇。此トナルモノナリ。

(二) 輪西製鐵所

(1) 燒結工場 (大体フルトコロ止) 新設 燒結量年額約一三〇、〇〇〇 吨

貯鑛槽其他ヲ含ム

豫算總額 八〇〇、〇〇〇 円

支出割

- 第三回營業期 二四九、〇〇〇 円
- 第四回 三三〇、〇〇〇 円
- 第五回 二二一、〇〇〇 円

輪西、銑鐵生産費ヲ低下セシムル為ニ今日以上多量ニ道内産褐鐵鑛ヲ使用セシムルヲ要ス然レドモ該鐵鑛ハ水分多量且ツ粉碎レ易キヲ以テ之ヲ燒結セザルベカラズ本設備ハ該目的ニ當ツルモノニシテ現在ノ燒結量年額一三〇、〇〇〇 吨ヲ倍加セムトスルモノナリ現在道内鑛使用率約四五%内燒結鑛約三四%ナルガ本設備ニ依リ燒結鉦約六八%ニ上リ

道内鑛使用率約七九%ニ増加スベシ

(2) 半炭製造設備新設 石炭消費量年額約一〇〇、〇〇〇 吨

豫算總額 九〇〇、〇〇〇 円

支出割

- 第三回營業期 三〇〇、〇〇〇 円
- 第四回 五〇〇、〇〇〇 円
- 第五回 一〇〇、〇〇〇 円

本計畫ハ本製鐵所製炭用配合炭ノ代用品ニ當ツベキ低温乾溜ニ依ル「コライト」ノ製造設備ニシテ之ニ依リテ「コライト」約七五、〇〇〇 吨ト共ニ重輕油約八〇〇 吨ヲ製造スルコトヲ得右「コライト」ノ生産額ハ本製鐵所製炭用トシテハ過剩アルヲ以テ之ハ釜石ニ送リテ輸入炭ニ代用セシム又重輕油ハ之ヲ高價ニ他ニ販賣シ得ベク且商工省ヨリ一吨當十圓ノ奨励金ヲ支附セラレ

(ハ) 火力發電設備増設

四〇〇〇「キロ」 周波数ハ五〇「サイクル」トス

汽罐燃料ハ剩餘高炉瓦斯ヲ基本トス

豫算總額 六〇〇、〇〇〇円

支出割

第三回營業期 一〇五、〇〇〇円

第四回營業期 一八〇、〇〇〇円

第五回營業期 三二五、〇〇〇円

現在ノ自家火力發電設備一、五〇〇「キロ」及購入電力五六三「キロ」ニテ
ハ前二廠ノ新設備ニ要スル七七〇「キロ」ノ動力ヲ缺カ、ミナラズ現在
ト雖ニ常ニ不足勝ニシテ且差當リ購入ノ餘地ナキヲ以テ本設備ヲ
増設シテ之ヲ主設備トシ現設備ハ豫備ト為サムトス而シテ約一〇〇〇
「キロ」ノ過剰電力ヲ生スルヲ以テ之ハ將來滿俺鐵ノ製造ニ使
用セシムトス

(三) 釜石製鐵所

イ 製鋼設備増設 六〇兆円炉一基 鋼塊年額約五〇、〇〇〇兆
豫算總額 六七一、〇〇〇円

支出割

第三回營業期 三三四、〇〇〇円

第四回 三三七、〇〇〇円

本社製鋼能力ヲ最速且ツ最廉ニ増加スル方法ノ一トシテ
本設備ヲ計畫セルモノニシテ之ニ依リ現在ノ鋼塊年額約二〇、〇〇〇兆
ヲ約二五、〇〇〇兆ニ上ラシム而シテ上記總鋼塊ハ現在ノ中小形工場設
備ヲ改造シ之ニ依リテ年額約二二、〇〇〇兆ノ中小形棒型鋼ヲ製作ス
ルノ原料ニ當ル見込ナルモ右中小形工場改造ニ付テハ尙調査研究ヲ
要スル点アルヲ以テ該計畫ハ之ヲ第四期營業期ニ於テ掲上セムトス
四 焼結工場(大體「カリーナ」トシテ)増設 焼結量年額約一三、〇〇〇兆

豫算總額 五〇〇、〇〇〇円

支出割

第三回營業期 七、〇〇〇円

第四回 二八三、〇〇〇円

第五回 二一〇、〇〇〇円

現在年額約六〇、〇〇〇兆焼結ノ設備ヲ有スレドモ之ニテハ釜石粉鑽全
部ヲ處理スル能ハズ為ニ輸入鑽石ノ使用歩合ヲ増加スルノ結果ヲ
招來シ、アリ故ニ本設備ハ釜石粉鑽ヲ全部焼結スルノ外関東
地方其他ノ硫酸滓紫鑽ヲモ焼結シテ之ヲ利用シ以テ銑鐵生産
費ノ低下ヲ圖ラムトスルモノニシテ本設備完成後ニ至リテハ現在ノ
焼結鑽使用量ニ三%ハ之ヲ四〇%迄増加スルコトヲ得ベシ
ハ 鞍炭爐増設 年額約一三、〇〇〇兆(一日能力三五〇兆)
副産物設備ノ一部共 重ナル副産物年額

硫酸安母尼亞 二、〇〇〇 吨
 粗ベンゾール 二、四〇〇 吨
 炭 内
 副産物設備 一、一〇、〇〇〇 円
 一、三四〇、〇〇〇 円
 一、四五〇、〇〇〇 円
 豫算總額

支出割

第三回營業期 一七八、〇〇〇 円 一五〇、〇〇〇 円 二八、〇〇〇 円
 第四回 九七〇、〇〇〇 円 八九三、〇〇〇 円 七七、〇〇〇 円
 第五回 三〇二、〇〇〇 円 二九七、〇〇〇 円 五、〇〇〇 円

現在、敝炭炉ハ一部修繕期ニ達セル為メ銻鑛炉ノ好況ニ對シ敝炭
 不足ノ懼アリ依テ本増設ヲ行ヒ之ト相待テ現在ノモノノ一部ニ
 修繕ヲ行ヒ併セテ將來銻鑛炉増設ノ場合ニ要スル敝炭ノ
 一部供給ニ當テムトスルモノナリ

(二) 火力發電設備増設 一〇、〇〇〇「キロ」ターボージェネレーター設置

周波數ハ六〇サイクルトス(汽罐用燃料ハ剩餘高
 炉瓦斯ヲ基本トシ微粉炭燃燒裝置ヲ併設ス)

豫算總額

一、八五〇、〇〇〇 円

支出割

第三回營業期 三五、〇〇〇 円
 第四回 四〇〇、〇〇〇 円
 第五回 一、四一五、〇〇〇 円

前記燒結工場、増設ニ伴ヒ電力不足ヲ生ズルモ外部ヨリノ購
 入ハ今日以上之ヲ増加スル能ハズ依テ已ムナク自家發電ノ為メ本
 増設ヲ計畫セルモノニシテ其ノ能力ヲ一〇、〇〇〇「キロ」ト為シタル
 ハ設備費及發電費ヲ經濟的ナラシムカ為ナリ而シテ剩餘
 電力ハ前記(一)項ニ記載セル所ノ近ク擴張スベキ壓延工
 場、所要ニ供ヘ且ツ今日作業シツアル所ノ滿俺鐵ノ増産又
 ハ硅素鐵ノ製造ニ使用セムトス

(四) 富士製鋼所

帯鋼壓延設備

年額約六〇〇〇〇〇〇

豫算總額

一五〇〇、〇〇〇〇円

支出割

第三回營業期

三五〇、〇〇〇円

第四回同

八五〇、〇〇〇円

第五回同

三〇〇、〇〇〇円

本計畫ハ輸入鋼材ノ大宗ニシテ其ノ寸法ノ種類極メテ多岐ニ涉レル帯鋼ノ内比較的数量ノ多キ鋼管材料タル「スケルプ」約三〇、〇〇〇吨其他一般市場品約三〇、〇〇〇吨ヲ製造スルノ設備ヲ新設セムトスルモノニシテ其位置ヲ本製鋼所ニ選定シタルハ東京附近市場ガ最モ需要ノ多キニ依ル而シテ之ガ原料タル小鋼片ハ八幡ヨリ供給スルノ豫定ナリ

(五) 兼二浦製鐵所

大同江沿岸埋立及荷揚設備新設 地積 三、八〇〇坪

豫算總額 一四〇、〇〇〇円

支出割

第三回營業期 八〇〇〇円

第四回同 三〇、〇〇〇円

第五回同 一〇二、〇〇〇円

本計畫ハ鑛滓ノ經濟的處理ノ為水面ノ埋立ヲ為スト共ニ荷揚ケル機械化ヲ圖ラムトスルモノナリ本設備完成ノ上ハ從來要シタル荷揚費ノ約三分ノ一ヲ節約スルコトヲ得ベシ

起業費繼續期割額集計表

設備名稱	總額	支 出 營 業 期 割							
		第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回
(一) 八幡製鐵所	三五七,000 円	六七,000 円	一〇,三四〇,〇〇〇 円	九八六,〇〇〇 円	四三〇,〇〇〇 円	三〇,〇〇〇,〇〇〇 円	一九五,〇〇〇 円	〇	〇
(イ) 鑄 鑪	六九四,〇〇〇	四二,〇〇〇	一〇,九〇〇,〇〇〇	一,五七五,〇〇〇	二〇,七五〇,〇〇〇	一〇,七五〇,〇〇〇	七〇八,〇〇〇	〇	〇
(ロ) 鍛 炭 副産物設備	七九九,〇〇〇	四七九,〇〇〇	七二,〇〇〇	一,三三五,〇〇〇	二,三二五,〇〇〇	一九二五,〇〇〇	一,三四〇,〇〇〇	〇	〇
(ハ) 官營製鐵所時代 未完了諸設備完了	八二七,〇〇〇	三六,三〇〇	四六五八,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ニ) 第一製鐵工場大改造	四二二,〇〇〇	一九四,〇〇〇	二二七九,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ホ) 鋼材壓延設備改造	七四九,〇〇〇	二二五,〇〇〇	五二四,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ヘ) 鉍滓處理設備増設	二〇七,〇〇〇	八四二,〇〇〇	二七五,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ニ) 瓦斯配給設備	三三二,〇〇〇	一三二,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
(イ) 給水設備	九五,〇〇〇	三三五,〇〇〇	六〇,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ロ) 繫船壁	七二,〇〇〇	七二,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ハ) 敷地聯絡	七七,〇〇〇	七七,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

設備名稱	總額	支 出 營 業 期 割							
		第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回
(一) 西八幡工場擴張	五九七,〇〇〇 円	一〇,一四〇,〇〇〇 円	一六,二四〇,〇〇〇 円	三,三三二,〇〇〇 円	〇	〇	〇	〇	〇
(ニ) 高級鋼板工場新設	三,五七,〇〇〇	五四九,〇〇〇	一四三,〇〇〇	一,一七八,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ハ) 電氣製鋼炉新設	三三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
(イ) 發電所擴張	二四五,三〇〇	一三〇,〇〇〇	二二三,〇〇〇	二一〇,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ロ) 燒結工場新設	七〇〇,〇〇〇	六五,〇〇〇	四三四,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
(三) 輪 西製鐵所	二,三〇〇,〇〇〇	六五四,〇〇〇	一〇,一〇〇,〇〇〇	六三六,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
(イ) 燒 結工場新設 貯鉄槽共	八〇〇,〇〇〇	二四九,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	二二,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ロ) 中級炭製造設備新設	九〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ハ) 火力發電設備増設	六〇〇,〇〇〇	一〇五,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	三二五,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ニ) 釜石製鐵所	四,四一〇,〇〇〇	五五四,〇〇〇	一,九九〇,〇〇〇	一,九二七,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
(イ) 製鋼設備増設	六七一,〇〇〇	三三四,〇〇〇	三三七,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
(ロ) 燒結工場増設	五〇〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	二八三,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇

設備名稱	總額	支出						
		年三回	年四回	年五回	年六回	年七回	年八回	
(一) 散炭炒増設 副産物設備一部共	一五〇,〇〇〇	一七八,〇〇〇	九七,〇〇〇	三〇,〇〇〇	〇	〇	〇	
(二) 火力發電設備増設	一八五,〇〇〇	三五,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一四五,〇〇〇	〇	〇	〇	
(四) 富士製鋼所 帶鋼壓延設備	一五〇,〇〇〇	三五,〇〇〇	八五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	〇	〇	〇	
(五) 兼二浦製鐵所 大同江沿岸埋立及 荷揚設備新設	一四〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇	〇	
合計	四四三,五〇〇	七,八三七,〇〇〇	二四三,〇〇〇	一三八,六〇〇	四三〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一八五,〇〇〇	

前五項外一般の改良補充費トシテ左記ノ金額ヲ支出セムトス

- (イ) 八幡製鐵所 三、三、六三八円
- (ロ) 輪西製鐵所 一、四、八八〇円
- (ハ) 釜石製鐵所 五、九、〇八二円
- (ニ) 兼二浦製鐵所 九、八、八一四円
- (ホ) 二瀬鑛業所 三、一、八、八一四円

合計

四、二、〇、七、二、九一四円

以上起業費本営業期分總計 一、三、〇、四、四、三、九一四円

二 作業

本營業期ニ於ケル各作業所別生産豫定數量左ノ如シ

作業所名

品 別

本營業期豫定

前營業期豫定

比較増減(増減)

八幡製鐵所

鋼塊

六八六、九〇〇

五八三、五〇〇

一〇三、八九九

自折用

五五六、三九〇

五四〇、二〇〇

一六一九〇

次期(持越)

〇

一八三〇〇

△ 一八、三〇〇

外 賣

一三〇、〇〇〇

二五、〇〇〇

一〇五、〇〇〇

鋼 材

八七〇、〇〇〇

七八八、六〇〇

八、四〇〇

自折用

八七〇、〇〇〇

七八八、六〇〇

八、四〇〇

輪西製鐵所

鋼塊

七二一、二五〇

六六〇、二〇〇

五〇、九五〇

外 賣

七二一、二五〇

六六〇、二〇〇

五〇、九五〇

釜石製鐵所

鋼塊

二六、〇〇〇

一〇五、〇〇〇

〇

自折用

二六、〇〇〇

一〇五、〇〇〇

〇

次期(持越)

〇

五、八五〇

△ 五、八五〇

外 賣

六二、四〇〇

六二、六五〇

△ 二五〇

鋼 塊

八三、四五〇

七三、一〇〇

一〇、三五〇

自折用

七、四一〇

六二、三〇〇

九、一一〇

外 賣

一三、〇四〇

一〇、八〇〇

一、三四〇

鋼 材

六三、六〇〇

五六、九〇〇

六、七〇〇

自折用

六三、六〇〇

五六、九〇〇

六、七〇〇

富士製鋼所

鋼塊

三三、七〇〇

三一、三〇〇

一、四〇〇

外 賣

六三、六〇〇

五六、九〇〇

六、七〇〇

自折用

二九、三〇〇

二七、五〇〇

一、八〇〇

八幡製鐵所

鋼材

二七、〇〇〇

二五、八〇〇

一、二〇〇

自折用

三、四〇〇

三、八〇〇

四〇〇

外 賣

三、四〇〇

三、八〇〇

四〇〇

合 計 銑										
社 用	石 炭	外 賣	鋼 材	外 賣	社 用	鋼 塊	外 賣	社 用	銑 鉄	鹿 島 炭
六三、〇〇〇	六三、〇〇〇	八一七、三八六	八一七、三八六	一三、〇四〇	一、〇一〇、一一〇 <small>(定期へ持越六〇〇銑合)</small>	一、〇三三、二五〇	三三八、八〇〇	六四五、九九〇	一、〇三四、七九〇	九五、〇〇〇
五五〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	七五四、六〇〇	七五四、六〇〇	一〇、八〇〇	九一四、五〇〇	九二五、三〇〇	二六九、九〇〇	六四四、六〇〇 <small>(定期へ持越三五〇銑合)</small>	九一四、五〇〇	九五、〇〇〇
六三、〇〇〇	六三、〇〇〇	六二、七八六	六二、七八六	一、三四〇	九五、六一〇	九六、八五〇	一一八、九〇〇	一、三九〇	一二〇、二九〇	〇

兼三浦製鐵所												
八幡製鐵所向	二 瀨 炭	外 賣	鋼 材	次期へ持越	八幡製鐵所向	自 所 用	鋼 塊	外 賣	次期へ持越	自 所 用	銑 鉄	外 賣
五三、〇〇〇	五三、〇〇〇	一五六、三六	一五六、三六	六、〇〇〇	一三、〇〇〇	一八、〇〇〇	三六、〇〇〇	八〇、四〇〇	〇	二六、〇〇〇	一〇六、四〇〇	二七、〇〇〇 純
四五五、〇〇〇	四五五、〇〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	〇	一八、〇〇〇	一四、三〇〇	三三、三〇〇	七七、三五〇	一、二五〇	二一、五〇〇	一〇〇、〇〇〇	二五、八〇〇 純
五八、〇〇〇	五八、〇〇〇	三、九三六	三、九三六	六、〇〇〇	△ 六、〇〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、一五〇	△ 一、二五〇	四、五〇〇	六、四〇〇	一、二〇〇 純

三 金融

本營業期ニ於テモ引續キ鐵鋼ノ需要旺盛隨テ收支狀況亦佳
 良ナルノ見込ナルニ依リ本社營業用資金ニ付テハ收入ヲ以テ
 充分之ヲ支辨スルコトヲ得ベク若シ一時的ニ收支不均衡
 ヲ生ジタル場合ニハ取引銀行ヨリノ短期融通ニ依リ之ヲ調
 節シ得ベシ、然レドモ第一回營業期ニ於テ預金部ヨリ借入
 レタル資金ノ現在殘額ニ千七百萬圓ハ本營業期ニ屬
 スル昭和十年二月其ノ償還期限ニ到達スルニ依リ内約
 四百萬圓ハ本社收入ノ狀況ニ應ジ期限迄ニ隨時分割シテ
 現有資金ヲ以テ之ヲ償還シ殘額約二千三百萬圓ニ付テハ
 更ニ之ヲ借入金ニ依ル見込ナリ
 而シテ本件借入金ノ償還ニ付テハ資金ノ都合ニ依リテハ
 豫定ヲ超過シテ實行スル場合アルベキヲ豫メ承認シ置

カレムコトヲ請フ

四、販 賣

本営業期ニ於テル鉄鋼販賣見込左ノ如シ

品 種

別 本営業期見込

前営業期見込

比較増減(減印)

純鉄	三、八、八〇〇 <small>能</small>	二、六、九、九〇〇 <small>能</small>	一、一、八、九〇〇 <small>能</small>
鋼塊	一、二、〇、四〇〇	一、〇、八〇〇	一、二、四〇〇
鋼片及シート、パイ	九、〇、六〇〇	八、三、三〇〇	七、三〇〇
鋼材	七、二、六、七、八、六	六、七、一、三〇〇	五、五、四、八、六
重軌條	一、五、六、〇〇〇	一、四、三、三〇〇	一、六、七〇〇
大形條鋼	六、六、〇〇〇	五、八、五〇〇	七、五〇〇
シート、パイ	六、〇〇〇	五、九〇〇	一〇〇
輕軌條	一、五、〇〇〇	一、四、六〇〇	四〇〇
中形條鋼	八、六、六〇〇	八、五、四〇〇	一、二〇〇
小形條鋼	一、一、四、八〇〇	一、〇、八、三〇〇	六、五〇〇

線材及製釘材	六、〇、〇〇〇	五、八、五〇〇	一、五〇〇
鍛鋼	四、八〇〇	四、七〇〇	一〇〇
外輪	三、一〇〇	三、一〇〇	〇
厚板	一、一、五、四、三、六	一、〇、〇、八〇〇	一、四、六、三、六
中板	三、六、〇〇〇	三、五、二〇〇	八〇〇
薄板	一、四、四〇〇	一、四、〇〇〇	四〇〇
矽素鋼板	七、二〇〇	六、〇〇〇	二〇〇
鉄力板	四、二、四、五〇	三、三、〇〇〇	九、四、五〇

五、研究事項

砂鉄、選鉱ト焼結ニ就テ

◎ 茂山貧磁鉄鉱処理法、研究、焙焼磁、磁気選鉱実験ニ就テ

◎ 同 上茂山精磁、焼結ニ就テ

◎ 同 上、ハンマークラッシュヤール、破碎焙焼磁、風力ニ依リ選鉱成績ニ就テ

◎ 茂山精磁其他諸原料、半成炭ニ依リ焼結ニ就テ

◎ 穴内滿焼磁石、諸性質ニ就テ

◎ 鉄磁石母岩、磁力ニ就テ

◎ 連続式海綿鉄製造法、研究

◎ 磁滓綿其他各種工業用断熱材料、比較研究

◎ 熱風炉、瓦斯使用量能率及熱ノ分布状態、研究

◎ 熔鉱炉ニテ低炭素銑製造法、研究

◎ 熱風炉其他富熱室内ニ於ケル瓦斯、流レニ就テ

内地貧滿焼磁處理、研究

「ニックス」比熱測定

◎ 高速度鋼、性質ニ就テ

◎ 変圧器用珪素鋼板材質、研究

◎ 美装鋼板、脆性、研究

◎ 彈丸形鋼塊、研究

◎ シートバー、鋼塊、研究

◎ 特殊管材料材質、研究

◎ 鐵力板合金層、研究

◎ 製鉄所鋼矢板ト普通鋼板ト、錆、程度ニ就テ比較研究

◎ 「コバルト」「クロム」「モリブデン」系磁石鋼、焼入温度及帯磁試験

◎ 磁石鋼、熱處理ト磁着カトノ関係

◎ 耐久磁石熱處理

○ 極軟線材導電率測定

○ 線材鋼塊材質的特性及銑造ニ関スル研究

○ 軟質特殊線材性質

不感磁性防錆鋼板研究

高炭素線材銅成分影響

○ 汽罐厚板熱處理

軟質合銅鋼材機械的性質

「テニール」鋼鉄材研究

○ 鉄力板鍍錫改良

鉄助混凝土、鉄筋腐蝕試驗

○ 新抗剪力測定

鉄接「テニール」鋼板引張漏洩試驗

「テニール」鋼用電弧銑接碎研究

鉄鋼、高溫度ニ於ケル酸化還元、 Δ 線ニヨル研究

鉄—錫合金、 Δ 線の研究

瓦斯、微量分析並ニ鉄鋼中ニ含ム瓦斯、光學的分析ニ就テ

特殊鋼中「バナナム」定量法ニ就テ

鉄鋼中、硼素分析方法ニ就テ

鋼、窒化ニ関スル研究

○ 鉄炭素系合金、比熱並ニ各相間、熱量、變化測定

鋼片、加熱速度、研究

珪素鋼、比重變化測定

各地製鉄所溶銜爐熱風爐用耐火煉瓦比較試驗(鞍山、金石、兼三浦)

熱風爐「ソックス」煉瓦、熱効果ニ就テ

装入炭、酸炭化中ニ於ケル溫度、變化

高溫度酸炭瓦斯、電氣的「タール」除去ニ就テ

○ 「タール」類中、水分、電氣的除去ニ就テ

混凝土養生法、相違ト強度トノ關係

各種「セメント」屈曲試験

鋪道用「タール」研究

○ 濕性「タール」(タール乳劑)ノ研究

○ 大連(旅順)珪石品位向上ニ関スル研究

○ 小ヶざる「ドロマイト」ノ燒成法研究

○ 石炭粉砕法——灰分ノ關係

煖炭炉瓦斯中「エナレン」等ノ利用法

「クレオソート」油及「アシラマシ」油ノ工業的水素添加試索研究

○ 廢塩化亜鉛ヨリ塩化亜鉛ノ回收ニ関スル研究

○ 「フットレル」式電氣收塵装置ノ收塵灰ノ自然焦性ヲ起ス原因

鐵力收リ錫ノ回收法

「フットレル」電氣收塵装置沈澱灰ノ利用法

煙管式水管式「ボイラー」ノ熱能率比較

「ボイラー」ノ研究ノ方々

○ 普通鋼ノ真強斷力ノ測定

○ 鋼ノ屈曲率ト打撃ノ變化

○ 雲ノ川原水ノ浄化ノ由ニ就テ

六 損 益

本營業期ニ於ケル利益見込左ノ如シ

一 總 益 金 一六二、七三〇、二六〇 圓

一 總 損 金 一三三、三三七、七九四 圓

差引利益 三〇、四一二、四六六 圓

内

減價償却費控除 五、〇六二、一八〇 圓

再差引純益金 二五、三五〇、二八六 圓

右純益金ノ處分見込左ノ如シ

法定積立金(純益額ノ百分ノ五) 一、二六七、五二五 圓

特別積立金 一三、二八八、一四一 圓

株式配當金(年六分) 一〇、七九四、六三〇 圓

備考 政府配當金ヨリ控除シ得ベキ義務貯蓄ニ要スル資金ノ利

息ニ付テハ正式ニ貯蓄命令ニ據セス又製鉄獎勵金ニ付テハ

其ノ交付セラル可キ割合未ダ決定ニ至ラザル趣ナルヲ以テ孰レモ

本計更書ニ於ケル純益金ニハ一應之ヲ計上シ置カザルモ正式

ニ其ノ命令ヲ受ケタル上ハ之ヲ純益金ニ加算スルコト

日本製鐵株式會社第三回營業期收入支出豫算

科 目		本期豫算額	前期豫算額	比 較	增 減
製 品 販 賣 代	製 品 代	119,316.54	103,347.64	16,136.27	增
	副 製 品 代	11,462.27	9,811.60	1,622.17	增
利 子 收 入		7,853.77	5,231.56	2,622.21	增
雜 收 入		40.60	40.60	0	同
豫 備 收 入		600.00	600.00	0	同
借 入 金		230,000.00	230,000.00	0	同
借 入 金		230,000.00	230,000.00	0	同
收 入 合 計		149,394.69	110,257.78	39,136.27	增

科 目		本期豫算額	前期豫算額	比 較	增 減
起 業 費	八幡製鐵所	107,392.34	20,442.91	86,949.43	增
	輪西製鐵所	83,936.97	9,384.63	74,552.34	增
	釜石製鐵所	767,490.00	58,500.00	708,990.00	增
	富士製鐵所	870,676.00	62,200.00	808,476.00	增
	兼二浦製鐵所	350,000.00	100,000.00	250,000.00	增
	二瀬鐵業所	385,558.00	75,800.00	309,758.00	增
	雜 費	318,810.00	59,154.70	259,655.30	增
豫 備 費		100,000.00	100,000.00	0	同
收 入 合 計		1,000,000.00	1,000,000.00	0	同

科	目	本期豫算額		前期豫算額	比較 / 差	
		直接支出額	分擔額		増	減
運送	國定資産維持修理費	一、九七四、八七一				
	電氣費	六三、一八〇六				
	用水費	二、三九六四				
	交際費	五、三五五〇				
	治療諸費	二八〇、四七四				
	市町村寄附金	三、一四七六				
	雜費	五、六五七、八〇	△一、三五〇二	五、五二、二七八		
	雜支出	一、六〇〇、五三一	△二、五六九〇	一、五七四、八四一		
	運送費	五四、一四五〇二		五四、一四五〇二		
	利子	六、九五、二七三		六、九五、二七三		
豫備費	六、〇〇〇、〇〇〇		六、〇〇〇、〇〇〇			

事業費	増資諸費	本期豫算額		前期豫算額	比較 / 差	
		直接支出額	分擔額		増	減
移送費		一、三五、一八三三	△三、四二七	一、三四八、四〇六		
器具費		三五、五二七	△四三五	三五三、一〇二		
材料費		三、三三、三六〇七	△七、六二七、〇三	二、五六、一、二〇四		
雜用原料費		一、九五、九七八三		一、九五、九七八三		
旅費		一、六四、五三七		一、六四、五三七		
事務費		二、六七、九八三	△一、〇六八	二、六六、九一五		
俸給及諸給		四、三〇、九三〇九	△四、八三四九	四、三五、〇九六〇		
重役報酬及賞與		二、二四、五〇〇		二、二四、五〇〇		
勞力費		一、五五、四七一五	△四、四九、八九三	一、五〇、九七、二六〇		
原料費		四、九二、九二二〇		四、九二、九二二〇		
事業費		八二、九六三、一〇四	△三、〇九、〇五七	八二、六五八、〇四七		
増資諸費		九、五〇、二、八七九	△三、〇五、〇五七	九、三、七、六七、八二二		
増資諸費				四、二、九、七〇		
増資諸費				九、五〇、二、八七九		
増資諸費				二、七、二、〇一〇		
増資諸費				一、二、五、六、八八五		
増資諸費				四、二、九、七〇		

	借入金償還	借入金償還
借入金償還	二七,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇
支出合計	二七,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇
	二七,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇
	八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇
	二七,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇
	〇	〇

總益金、總損金内容

總益金

收入總額

一六二、七三〇、二六〇圓

固定資産、増

一三、〇四四、二九一圓

豫備費收入、場合ニ於ケル同上

一〇〇、〇〇〇圓

當期生産銅塊、次期持越高

二九一、九〇〇圓

總損金

支出總額

一三三、三一七、七九四圓

借入金償還ニ依ル債務、減

△ 二七、〇〇〇、〇〇〇圓 (△印ハ減ヲ示ス)

借入金ニ依ル債務、負擔

二三、〇〇〇、〇〇〇圓

前期持越物品、本期使用高

六五、〇六八、一〇圓